

宇都宮市立宝木小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫	公開授業を定期的を実施し、授業を見合い語り合う機会を設けることで、子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫について日々研究、実践している。	「進んで勉強しているか」の質問に対しては市の平均を下回る学年もあるが、本校の児童を経年比較すると肯定割合は増えている。また、「授業が分かるか」については、市の平均とほぼ同じ水準まで伸びてきていることから、分かりやすい授業が展開できつつあることが伺える。このことから、授業が分かるようになり、進んで勉強する意欲も高まってきたと考えられる。今後も校内研修などを通して、授業を見合う機会を設定し、授業力の向上を図りたい。
・家庭と連携して、家庭学習の定着を図る。	家庭学習の手引きや、家庭学習の進め方を活用したり、学習がんばり週間を実施したりすることを通して、家庭に協力を求めながら、家庭学習の定着を進めている。	「宿題をきちんとやって提出しているか」については、市の平均をやや下回っている。「新しく習ったことを繰り返し練習しているか」については市の平均を大きく下回っている。ゲームやスマホの時間が増えている反面、学習時間は少なくなっている。さらに「ほとんど学習しない」児童の割合も増えつつあることから、家庭学習がまだ十分定着していないことが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方角性

・子どもの意欲を高める指導については、今後も継続して続けていきたい。

・家庭学習については、「学習時間」「学習内容」に課題がある。時間については、学年ごとの目標学習時間を再確認し目標時間学習できるよう指導していきたい。また学習内容については、新しく習ったことを繰り返し学習することは苦手であることから、漢字や計算など繰り返し学習することの大切さを年度初めにもう一度周知するとともに、家庭にも協力を呼びかけていきたい。

・今回の調査で、読書時間の減少傾向と社会や地域への興味関心が薄い実態が浮かび上がってきた。読書は、大切にしたいことなので学校でも読書の時間を確保していきたい。社会や地域への興味関心がないことは、視野が狭くなるとともに、教科としての「社会」への関心も低くなってきていることにつながっていると考えられる。このことから、総合的な学習や様々な行事などのカリキュラムマネジメントを通して、社会への関心が高まるよう工夫していきたい。